電マニ入力自動化システムを開発

紺野企業　業務効率向上、省力化に貢献

紺野企業（神奈川県綾瀬市、紺野大三郎社長、☎0467・70・6350）は、電子マニフェストの入力自動化システムを開発、運用を開始した。同社が独自に開発した専用のアプリに数量や終了日、備考といったマニフェストの情報を入力すると、RPAソフトを通じて自動的にJWネットや産廃管理ソフトに入力されるというもの。これまではプラスチックごみに特化したサービスであったが、今年2月からは粗大ごみなどすべての家庭ごみに対応した。実証実験の予定期間は同月28日まで。

同市では、2027年2月からプラスチック分別収集を開始予定。市民が分別で迷わないように昨年10月からLINEを用いた同サービスを行ってきた。市民からの意見を受け、対応するごみを▽燃えるごみ▽燃えないごみ▽空き瓶・PETボトル▽プラスチック▽粗大ごみ――にまで拡充した。

実証は、市内のプラ分別収集プレ実施地区（約4000世帯）で同サービスを試験利用する。市民が実際に利用することにより、判定結果の満足度や使い勝手の良さなどを集計し、本格導入に向けた準備を進めていく。

ものになっている。

3年ほど前から構想を開始したもので、同社の社員がノーコード開発プラットフォームを活用して開発。改良を繰り返したうえで昨年完成し、運用を開始した。

同社では収集運搬と処分業の許可を有しているが、工場が三つあるため四つのログインコードが存在し、JWネットに入力するたびにログインをする必要があった。また複数の産廃ソフトにそれぞれ入力作業をしており、毎日2～3人の担当者で半日ほどかかっていた。

同システム導入後は、同人数で1～2時間程度で完了するようになり、年間1000～2000時間程度の作業時間削減につながる見通しとなっている。

また作業は用意されたひな形に入力するだけのため、誰でも簡単に業務を行うことができ、属人的な業務からも脱却。引継ぎや代理での入力も簡単に行うことができるのも大きな特長だ。

現在、同社が使用しているエスエムエス（和歌山市、渡部聖人社長）の「産廃イチロー」と「産廃キング」の自動化が可能となっている。同社ではエスエムエスが提供する産廃ソフトの販売代理事業も行っていることから、今後、産廃ソフトの販売と併せ、今回の自動化システムの外部販売も進めていくという。

さらに、新たなアプリの開発にも取り組んでおり、今後もDXや業務効率向上に向けた取り組みを推進していくとしている。

「LINE」でごみ分別を確認

LINEヤフーコミュニケーションズ　福岡市と実証実験を開始

LINEヤフーコミュニケーションズ（福岡市、鈴木優輔社長）は、福岡市と連携し、「LINE」を活用した生成AIによるごみ分別支援サービスの実証実験を行っている。同サービスは、市民が家庭ごみの写真を撮影するか、名称を入力すると、生成AIが分別区分を判断し、正しい捨て方の参考情報も通知するもの。これまではプラスチックごみに特化したサービスであったが、今年2月からは粗大ごみなどすべての家庭ごみに対応した。実証実験の予定期間は同月28日まで。

同市では、2027年2月からプラスチック分別収集を開始予定。市民が分別で迷わないように昨年10月からLINEを用いた同サービスを行ってきた。市民からの意見を受け、対応するごみを▽燃えるごみ▽燃えないごみ▽空き瓶・PETボトル▽プラスチック▽粗大ごみ――にまで拡充した。

実証は、市内のプラ分別収集プレ実施地区（約4000世帯）で同サービスを試験利用する。市民が実際に利用することにより、判定結果の満足度や使い勝手の良さなどを集計し、本格導入に向けた準備を進めていく。

トラック用タイヤを新発売

TOYO TIRE　低メンテナンス性を追求

TOYO TIREは、低メンテナンス性を追求したトラック・バス用リブタイヤ「M-170」を開発、発売を開始した。リブタイヤは、縦方向につながったパターンが特徴で、直進安定性と耐偏摩耗性能に優れている。同社が1994年に発売した「M-125」で実績のあるリブ面積配分を継承しつつ、トレッドパターンを改良。耐偏摩耗性能を高め、トラクション性能や操縦安定性能も強化した。このことで、運転時の快適性向上や、タイヤメンテナンス工数の低減に貢献するという。

開発に当たっては、同社のトラック・バス用タイヤ開発基盤技術「e-balance」を活用した。形状安定性も強化

液化CO_2球形タンク

日鉄エンジニアリング　実証試験を終了

日鉄エンジニアリングは、液化CO_2の低温・低圧条件下での大量輸送の実現に必要な液化CO_2球形タンクの大容量化について技術確立した。

同社では、日本CCS調査が（国研）新エネルギー・産業技術総合開発機構から受託した「CCUS研究開発・実証関連事業／苫小牧におけるCCUS大規模実証試験／CO_2輸送に関する実証試験／CO_2船舶輸送に関する技術開発および実証試験」のうち「液化CO_2大量貯蔵システムに関する技術開発」の再委託を受け、2021～23年度に技術開発を行ってきた。

従来の液化CO_2貯蔵タンクは、容量が1・0万トンのものに比べ、容量が1・7万トンの球形タンクの大容量化を実現した。液化CO_2の大容量化を実現するには、大型化することで、容量当たりの表面積を小さくする必要がある。球形タンクは、容量当たりの表面積が最小となる形状であり、大容量化に適している。

産廃イチロー

産廃キング